

問1 世界の一次エネルギー消費に関する統計において、1990年には全体の約2割であったアジア諸国の割合は、2012年には中国が22%、インドが6%、その他のアジア諸国が6%となりました。これらの数値を合計したとき、アジア諸国が世界のエネルギー消費全体に占める割合として、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 長野県公立入試 類似)

1. 約4分の1 2. 約2分の1 3. 約3分の1 4. 約3分の2

問2 中国が急速な工業化を遂げ、世界有数の経済規模を持つに至った要因と、その経済指標に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)

1. 国内の農業生産を第一に優先する政策をとったことで、自動車の保有台数が世界最大となった。 2. 人口が減少傾向に転じたことで一人あたりの所得が劇的に向上し、経済規模が世界一となった。 3. 外国との貿易を厳しく制限する鎖国的な政策を維持したことで、独自の工業化を成功させた。 4. 1970年代末からの改革・開放政策により外資を導入したことで、国民総所得が大幅に上昇した。

問3 アジア諸国の産業別就業者人口の割合を比較した統計において、インドの就業者数の割合が多い産業を順に並べたものとして正しいものはどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)

1. 第1次産業 > 第3次産業 > 第2次産業 2. 第1次産業 > 第2次産業 > 第3次産業 3. 第3次産業 > 第2次産業 > 第1次産業 4. 第2次産業 > 第3次産業 > 第1次産業

問4 東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟するタイにおいて、輸出の中心が農産物から工業製品へと変化した背景と現状を説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)

1. 輸入代替工業化に失敗した結果、特定の農作物の栽培に依存するモノカルチャー経済へと逆戻りした。 2. 外国企業の誘致や投資を受け入れて工業化を推進したことで、機械類や自動車の輸出割合が増加した。 3. 地下資源の枯渇により工業が衰退したため、現在は観光業と水産業が輸出の大部分を占めている。 4. 伝統的な農業を重視する政策に転換したことで、米や天然ゴムの輸出額が工業製品を上回るようになった。

問5 中国の人口統計において、一定の面積（1平方キロメートル）あたりに居住する人口の数を示す数値を比較したとき、山東省などの沿岸部と、甘粛省などの内陸部の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)

1. 人口密度は中国全土で均一であり、省ごとの地理的条件による差はほとんど見られない。 2. 人口増加率は内陸部で高く、沿岸部に向かうにつれて低くなる傾向がある。 3. 人口密度は沿岸部で高く、内陸部に向かうにつれて低くなる傾向がある。 4. 人口密度は内陸部で高く、沿岸部に向かうにつれて低くなる傾向がある。

問6 世界のさまざまな地域で見られる宗教儀礼の説明文のうち、東南アジアのタイなどで広く信仰されている宗教の文化にあたるものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)

1. 決まった時間に聖地メッカの方向へ向き、ひざまずいて祈りを捧げる。 2. 日曜日になると人々が教会に集まり、聖書が朗読される中で祈りを捧げる。 3. 早朝に黄色い衣装を着た僧侶が街を歩き、人々が食料などを寄付（喜捨）する。 4. 数多くの神々を信仰し、巡礼者がガンジス川の聖なる水に入って身体を清める。

問7 インドのIT産業は、アメリカ合衆国のシリコンバレーなどの企業と密接に連携して発展してきました。インドとアメリカ合衆国の間にある「約12時間の時差」を活かした業務運営の仕組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 富山県公立入試 類似)

1. 時差による気温の変化を利用して、現地に移転し、そこから日本へ製品を逆輸入する構造を大幅に削減する仕組み 2. 日付変更線をまたがない位置関係を利用して、リアルタイムの金融取引を24時間中断せずに行う仕組み 3. アメリカとインドで常に同じ時刻に会議を行うことで、意思決定のスピードを極限まで高める仕組み 4. アメリカの企業が業務を終える夜間に、インド側で作業を継続することで、24時間体制の効率的な開発を行う仕組み

問8 世界各地で見られる地域協力の枠組みのうち、東南アジア諸国連合（ASEAN）が掲げている主な目的や特徴として適切なものはどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)

1. 石油の価格や生産量を調整し、加盟している産油国の利益を保護する。 2. ヨーロッパ全体の経済や政治の統合を進め、共通の通貨であるユーロを導入する。 3. 域内の経済成長を促進し、政治的・社会的な安定や文化の発展を図る。 4. 太平洋を取り囲む国々で、自由な貿易や投資を行うための緩やかな協力を行う。

問9 タイから日本への輸出品目において、電気機器や機械類といった工業製品が高い割合を占めている理由として、最も適切な説明はどれか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)

1. 日本の多くの製造業が生産拠点を現地に移転し、そこから日本へ製品を逆輸入する構造が定着したため。 2. タイ政府が原油や天然ガスなどのエネルギー資源を独占的に日本へ輸出する政策をとったため。 3. 日本の農家との競争を避けるため、農産物の輸出を禁止し、重化学工業製品の輸出のみを推奨したため。 4. 労働集約的な産業である衣類や繊維製品の生産に特化し、安価な製品を大量に日本へ供給しているため。

問10 多くの日本企業が製造業の拠点をベトナムなどの東南アジア諸国に移転させています。2021年の統計において、日本の月平均賃金が約3000ドル弱であるのに対し、ベトナムは約300ドル強と約10倍の差があるというデータに基づいた場合、日本企業が現地へ進出する最大の目的として最も適切なものはどれですか。 (2026年 山形県公立入試 類似)

1. 現地の高度な技術力を活用し、日本国内では製造できない高機能な製品を開発すること。 2. 現地に眠る石炭や鉄鉱石などの豊富な地下資源を、安価かつ大量に調達すること。 3. 現地の巨大な消費市場を独占するために、現地での販売活動のみを強化すること。 4. 賃金の低い豊富な労働力を活用し、製品の生産コストを抑えて競争力を高めること。

問11 南アジアの農業において、年間降水量が1000mmを超えるガンジス川の下流域やインド半島の東部沿岸地域で、主食として盛んに栽培されている農作物を次の中から選びなさい。 (2024年 群馬県公立入試 類似)

1. とうもろこし 2. 綿花 3. 小麦 4. 米

問12 東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国であり、赤道付近に位置する島々からなるインドネシアの地理的・社会的特徴として正しいものはどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)

1. 南アジアに位置する島国で、近年は衣類などの繊維工業が急速に発展している。 2. 東南アジアの中で最も人口が多く、世界最大のイスラム教徒人口を抱える。 3. 西アジアのサウジアラビアと並び、乾燥した砂漠気候が広がるイスラム教国である。 4. 東南アジア大陸部に位置し、メコン川下流域の肥沃な平野で稲作が盛んに行われている。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 約3分の1	アジア諸国、特に経済発展が著しい中国やインドなどの新興国において、エネルギー消費量が急増しています。2012年の統計では、中国（22%）、インド（6%）、その他のアジア諸国（6%）を合わせると合計で34%に達しており、1990年当時の約2割という数字から、世界の約3分の1を占める規模まで拡大したことがわかります。
問2	答え 4 1970年代末からの改革・開放政策により外資を導入したことで、国民総所得が大幅に上昇した。	中国は1970年代末から「改革・開放」政策を推進し、経済特区の設置などを通じて外国の企業や技術を積極的に受け入れました。これにより「世界の工場」と呼ばれるまでに工業化が加速し、国民総所得（GNI）の増大や消費市場の拡大による自動車保有台数の増加といった、世界的な経済成長を成し遂げました。
問3	答え 1 第1次産業 > 第3次産業 > 第2次産業	インドでは近年、ソフトウェア開発などのIT産業（第3次産業）や製造業（第2次産業）が急速に発展していますが、依然として全就業者の約半数が農業を中心とした第1次産業に従事しています。統計上、第1次産業の割合が約5割で最も高く、次いでサービス業などの第3次産業が約3割、製造業などの第2次産業が約2割という構造になっています。
問4	答え 2 外国企業の誘致や投資を受け入れて工業化を推進したことで、機械類や自動車の輸出割合が増加した。	タイは、積極的に外国企業の投資を呼び込み、インフラを整備することで「アジアの工場」と呼ばれるまでの工業化を達成しました。この経済政策の転換により、かつての農業主体の経済から、機械類や自動車などを世界に供給する工業主体の経済へと発展を遂げました。その結果、輸出額の構成比においても、かつて主力だった農産物や資源に代わり、加工・組み立てによる工業製品が圧倒的なシェアを持つようになっています。
問5	答え 3 人口密度は沿岸部で高く、内陸部に向かうにつれて低くなる傾向がある。	一定の面積あたりの居住者数を人口密度と呼びます。中国の人口分布は非常に偏っており、降水量が多く平地に恵まれた東側の沿岸部（山東省など）では人口密度が高く、乾燥した砂漠や高地が広がる西側の内陸部（甘粛省など）では人口密度が低くなっています。これは自然環境の差に加えて、経済的な発展状況の差が大きく影響しています。
問6	答え 3 早朝に黄色い衣装を着た僧侶が街を歩き、人々が食料などを寄付（喜捨）する。	タイなどの仏教国では、早朝に僧侶が街を巡回し、人々が食料などを差し出す寄付（喜捨）を行う光景が日常的に見られます。ほかの選択肢は、それぞれイスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教の宗教儀礼についての説明です。
問7	答え 4 アメリカの企業が業務を終える夜間に、インド側で作業を継続することで、24時間体制の効率的な開発を行う仕組み	インドとアメリカ合衆国は地球のほぼ反対側に位置しており、約12時間の時差があります。この地理的条件を逆手に取り、アメリカの営業終了時に作業データをインドへ送り、インドの昼間に開発を進め、翌朝のアメリカに成果を戻すというサイクルが確立されました。これにより、ソフトウェア開発などの分野で1日24時間をフル活用した効率的な運営が可能になり、インドのIT産業成長の大きな要因となりました。
問8	答え 3 域内の経済成長を促進し、政治的・社会的な安定や文化の発展を図る。	東南アジア諸国連合（ASEAN）は、地理的に近い東南アジア諸国が協力することで、国際的な競争力を高め、地域の平和と経済成長を目指す組織です。加盟国間の関税を原則として撤廃するなど、経済的な一体化を強く進めている点が特徴です。
問9	答え 1 日本の多くの製造業が生産拠点を現地に移転し、そこから日本へ製品を逆輸入する構造が定着したため。	タイでは1980年代後半の円高以降、日本の自動車メーカーや家電メーカーなどが生産拠点を次々と移転させました。これによりタイ国内で工業化が急速に進展し、現地で生産された電気機器や機械類が日本へ輸出されるようになりました。このため、タイは日本に対して多額の貿易収支の黒字を計上しています。同時に、肉類や魚介類といった農水産物の加工品の輸出も継続しており、工業と農林水産業の両面で日本と強い結びつきを持っています。
問10	答え 4 賃金の低い豊富な労働力を活用し、製品の生産コストを抑えて競争力を高めること。	日本とベトナムの間には大きな賃金格差が存在します。企業は、日本国内よりも安価な労働力を確保できる地域に工場などの拠点を移すことで、製品1つあたりの生産コストを下げようとしています。これにより、世界市場において他社製品よりも価格を抑えて販売することが可能になり、国際的な競争力を維持・向上させることができます。
問11	答え 4 米	南アジアでは季節風（モンスーン）の影響による降水量の違いが農業に大きく反映されています。ガンジス川の下流域のような降水量の多い地域では、多量の水を必要とする米の栽培が盛んです。一方、降水量の少ないインド北西部などの乾燥した地域では、小麦の栽培が中心となっています。
問12	答え 2 東南アジアの中で最も人口が多く、世界最大のイスラム教徒人口を抱える。	インドネシアは、東南アジア諸国の中で最大の人口規模を持つ国です。熱帯雨林気候に属し、米や天然ゴム、原油などの資源も豊富ですが、社会的な最大の特徴は世界最大のイスラム教徒人口を有している点にあります。サウジアラビアは西アジア、繊維工業が盛んな島国はバングラデシュ、メコン川下流域はベトナムなどの特徴を指します。